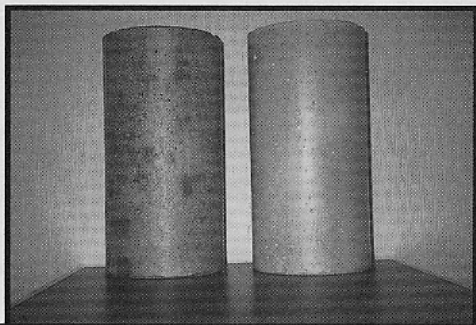


② 打放しのコンクリート建築物は新築後10～15年で劣化してしまう。そのコンクリート建築物に耐久性を付与するとともに意匠性を阻害するぬれ、むらを追放、打放しコンクリート素材の質感を保つようにした工法である。

超高層ビルの外壁に使われているフッ素樹脂やアクリルシリコン樹脂は、超耐候性があることで知られている。しかし、溶剤型であるため、塗布するとぬれやむらが生じ、意匠性を阻害する原因になっていた。

新工法は、打放しのコンクリート面の上に撥（はっ）水系防水剤、エマルジョン型透明塗膜合成樹脂、溶剤可溶性樹脂防水剤（フッ素樹脂かアクリルシリコン樹脂）の3タイプの防水剤を積層し、それぞれの難点を抑えつつ長所を生かしてデザイン的にも耐久性のある建築物としての信頼性を確保したもの。



高耐久性打放しコンクリート仕上げ工法
SEFシステム